

大山アガリクス臨床調査開始！

各領域の医療現場の第一線で活躍する現役の医師らで構成する国内唯一の医学研究機関として知られる特定非営利活動法人 CAMRO 代替医療研究機構（代表理事・佐々木淳医師）は、実際の患者800名を対象とした「大山アガリクス」の有効性調査を開始した。

健康食品「アガリクス」

内科医師ら 有効性を客観的に検証

代替医療を研究している医師のグループが、健康食品として市販されているキノコ「アガリクス」の健康への影響について調査を行っている。がんや高血

圧への効果が学会でも報告されているアガリクスだが、今回の調査は薬としてでなく、健康食品としての効果を探るといふ。（平沢裕子）



健康食品として市販されているキノコ「アガリクス」。がんや高血圧への効果が学会でも報告されている。

観的に証明したデータは今のところない。しかし、国際学会などでがんや高血圧の患者の有効例が多数報告されている。

調査を担当する三井記念病院消化器内科の佐々木淳医師は、「健康食品のほとんどは実際には有効性が期待できないが、アガリクスについては有効性を期待させる基礎研究データが豊富にある。医師が患者に使って実際に有効だったという症例報告も多い。医療に携わるものとして、その効果を客観的に調査してみたかった」と話す。

調査を行っているのは内科の医師らで組織する「代替医療研究機構」。代替医療とは、伝統的な民間療法や温泉療法、アロマセラピーなど、西洋医学とは異なる視点から病気の治療や予防を行うもの。米国で約十年前から国家的に取り組みを始めたことから、日本の医療関係者の注目も年々高まっている。

アガリクスは、ブラジルを原産地とする担子菌類ハラクケ科のキノコ。皮膚がんの治療を受けたレーガン元米大統領が使用したことでも知られ、日本でも健康食品として出回っている。

有効性は、腫瘍（しゅよう）細胞やラットなどを対象にした研究では確認されているが、人体を対象に客

医療現場への応用

調査は一般から募集した参加者にアガリクスを毎日服用してもらい、二カ月ごとのアンケートの回答をもとに体調の変化を観察する。参加者のうち、肝硬変や糖尿病などの生活習慣病とがんの患者については血液検査データも合わせてみ

ていく。佐々木医師は「私たちが評価したいのは、アガリクスを服用した人としなかに比較したときに、服した方がよりよい人生を送ることができるかどうか。客観的に証明ができれば、本当に有効な健康食品として、応用や末期の患者への一つにないかを寄せてい

産 経 新 聞

平成13年(2001年)7月18日 水曜日

これまで健康食品には消極的だった医療界が、がん患者の60%が密かに「アガリクス」（学術名・アガリクスブラゼイムリル）を治療と併用しているという実情に重きをおいた CAMRO 代替医療研究機構は「アガリクス」の有効性に対する実態調査に乗り出した。今回の臨床調査で注目されるのは、これまで一般的とされてきた動物を使った治験ではなく、実際の患者を対象とすることで動物には効いたが人間には？という不確実性も払拭する。健康食品では前代未聞の1200人という大規模な臨床調査が開始されることになる。有効性調査の対象には医学界でも品質の高さから愛用者が多いことで知られる「大山アガリクス」が選ばれた。

CAMRO 代替医療研究機構取材、及び産経新聞（平成13年7月18日）掲載記事より。